

# 無側枝性ギク「岩の白扇」のエセフォン利用による開花調節効果

## 1. 試験のねらい

7～8月出荷用の輪ギクとして、無側枝性ギク「岩の白扇」の導入が進んでいる。開花調節には電照による日長処理が行われているが、簡便な方法として「サマーイエロー」で使用されているエセフォン処理による開花調節を無摘心栽培で検討した。

## 2. 試験方法

平成12年4月17日に128穴のセルトレイに挿し芽し、5月1日に定植した。栽植様式は、ベット幅60cm、株間6cm×条間6cm、中央条間36cmの片側2条の4条植えとし、無摘心栽培とした。エセフォン処理は、5月5日300ppm 1回処理、5月5日300ppm+6月2日100ppmとし、無処理と比較した。処理量は株当たり3mlを散布した。調査は各処理区40本について、出蕾日および開花日、切り花品質として草丈、生体重、葉数、茎径を計測した。

## 3. 試験結果および考察

- (1) エセフォン処理により、5月29日まで草丈の伸長抑制が認められた。また、6月2日の処理では6月12～26日にかけて草丈の伸長が抑制された。
- (2) エセフォン処理後、および 区で一時的にやや葉数が増加する傾向が見られた。 区が6月中旬に出蕾し、葉数が増加しなくなったのに対し、 区及び 区の葉数は、それぞれ6月下旬、 区は7月上旬の出蕾まで増加した(図-1)。収穫時の葉数は、 区が最も多く、 区に比べ約17枚増加した(表-1)。
- (3) 出蕾は、 区に比べ 区で約12日、 区で約23日遅延した。開花は 区に比べ 区で14日、 区で25日遅延した。しかし、出蕾、開花揃いへのエセフォン処理の影響は判然としなかった(表-1)。
- (4) 生体重、花首長および茎径は、いずれも 区が最も大きくなった(表-1)。
- (5) エセフォン処理後の草丈の抑制は、節間伸長の抑制によるものであった。エセフォン処理により、分化葉数が増加し、これにより草丈の伸長や生体重が大きくなったものと思われた。

## 4. 成果の要約

「岩の白扇」を用いた8月出し作型の無摘心栽培において、エセフォン処理による花芽分化抑制効果が認められた。エセフォンを定植後5日、32日に2回処理することにより、開花日を8月5日(±7.4日)と約25日程度遅延させることができる。

(担当者 黒磯分場 藤田雅一)

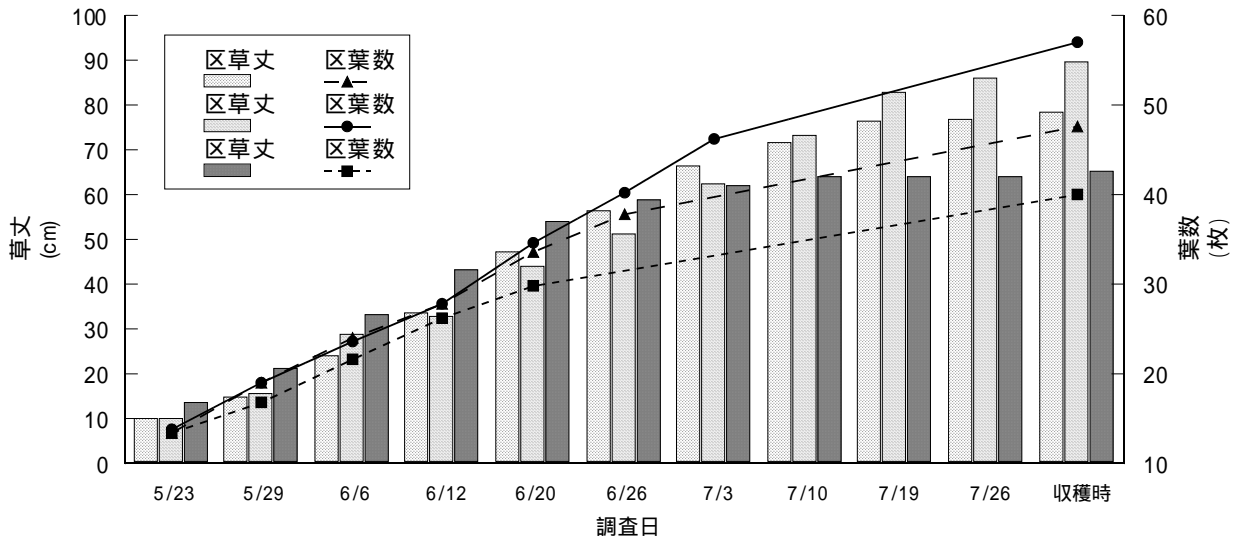


図 - 1 エセフォン処理が草丈および葉数に及ぼす影響

表 - 1 エセフォン処理が切り花品質に及ぼす影響

処理区	出蕾日 月/日	開花日 月/日	開花遅延日数 日	生体重 g	葉数(柳葉数) 枚	草丈 cm	花首長 mm	茎径 mm
Etフォン300ppm	6/28(±3.4)	7/25(±4.3)	14	59.3	47.7(2.3)	78.7	26.9	5.5
Etフォン300ppm + 100ppm	7/ 8(±5.9)	8/ 5(±7.4)	25	80.1	57.0(3.2)	89.7	38.0	6.0
無処理	6/16(±4.4)	7/11(±5.0)	0	56.5	40.0(2.2)	65.6	22.3	5.7

注1. 開花日は、花の切り前（誠文堂新光社刊）ステージ3に到達した日

2. 出蕾日、開花日は平均値及び標準偏差

3. 茎径は、最上位展開葉から下に9～10枚目の節間の直径